



論点整理

第二章 質の高い、深い学びを実現し、 分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 ⑤

「学びに向かう力、人間性等」に係る方向性と論点

- ◆ 各種調査から我が国の子供たちの課題と考えられる「まず考えてみること、行動してみること」等も「学びに向かう力、人間性等」の要素と位置付け、以下四つの要素により整理する方向で検討すべき

- ① 初発の思考や行動を起こす力・好奇心
- ② 学びの主体的な調整
- ③ 他者との対話や協働
- ④ 学びを方向付ける人間性



【構造的な整理を検討する上での参考】

- 変化が激しい時代において、主体的に自らの人生を舵取りしていくためには、思考や行動の終点が一つに定まっていらないような課題や状況に対して、培った資質・能力を活用して初発の思考や行動を起こしていくことが必要。このことは一人一人の個性的な人生形成の基礎となる
- また、初発の思考や行動がひとりよがりなものとなったり、意味のあるまとまりを失ったりしないよう、他者との関わりやメタ認知等を働かせる中でそうした思考や行動を修正（自己調整）し、それらを往還しながら、よりよい学びやその先にある豊かな人生・よりよい社会に向かっていくことが重要となり、このことはより高い水準での主体性の育成につながる。
- こうした初発の思考や行動を自ら起こし、他者との関わりやメタ認知により思考や行動を修正していくといったことを往還する学びのプロセスは、教科等の基本的な概念を深く理解し身体化（記号接地）したり、創造的な考えを生み出したりする上で重要である。

志をもち、温かい気持ちで人に接する

士は以って弘毅ならざるべからず。任重くして道遠し。

仁以って己が任と為す。亦重からずや。死して後已む。亦遠からずや。

（訳）高い理想を求める士という者は、心が広く、意志が強くなければならない。その任務が重く、道ははるかに遠いからである。任務の遂行には仁の実践が伴わなければならない。なんと重いことであろう。その責任は死ぬまで果たし続けなければならない。またなんと遠いことではないか。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）